

## 今後の化学物質対策に関する 環境省の基本的な考えと取組み

環境省環境保健部化学物質審査室  
森下哲

## 我が国の化学物質対策の今後のポイント

- 先進国の仕組みと親和性を持った、効果的・効率的な管理スキームを構築すべき
- 世界最高品質の製品を供給できるよう、情報管理システムを導入すべき
- 国内のみならず、海外から流入してくる有害化学物質にも目配りを行うべき
- リスク情報や技術ノウハウを国内で蓄積し、将来の発展の基礎とすべき
- 様々な関係者の参加と理解を得て、化学物質対策が社会的に評価される世の中をつくるべき

## 海外の動向を把握するために

### 日中韓での情報共有

第8回日中韓環境大臣会合(TEMM)(昨年12月開催)  
化学物質管理に関する情報交換の開始について合意  
日中韓事務レベル会合の開催(本年3月予定)

### 欧米と中韓の動向の把握

公開シンポ: 欧州REACHと我が国の対応(3月2日)  
欧州委員会環境総局の担当官を招聘  
公開シンポ: 諸外国における化学物質管理の最新動向  
(3月30日)  
欧州委員会(企業総局)、米国環境保護庁、カナダ保健省  
中国環境保護総局、韓国環境省の担当官等が参加

## 様々な関係者が協調するために

### 要請

川上企業だけではなく、川中企業、川下企業が連携した取組みの推進  
情報提供・リスコミにより、消費者・NGOの認知・理解の獲得

### 課題

関係者の間で情報の共有が必要  
将来の見通しについても共有が必要